

# 「更級日記」 菅原孝標女

作者 菅原孝標女

成立 一〇六〇年頃

内容 資料集 141 ページ

動詞

赤文字

助動詞

緑文字

形容動詞

紫文字

助詞

青文字

その他の品詞

橙文字

チェックすべき用法

二重傍線部分

複合動詞

波線部分

をかしげなる猫

格助・主格

花の

咲き散る折ごとに、

めのと

乳母亡くなり

過去・連体

し折ぞ

係助詞

桜の花が咲き散る時節ごとに、乳母が亡くなった季節だな

終助詞・強調

かし

とのみあはれなるに、同じ折亡くなり

ハ行四段・連用

たまひし侍従

あとばかり切なく思われ、同じ頃お亡くなりになった侍従

筆跡

の大納言の御むすめの手を見つつ、

むやみに

すずろにあはれなるに、

の大納言の姫君の筆跡を見ては、むやみに悲しい気持ちになっていたが、

カ行下二・連体

ワ行上一・連用存続・已然

五月ばかり、**夜更くる**まで物語を読み**起き****み****た****れ****ば**、  
5月頃、夜更けまで物語を読んで起きていると、

★①

強意・終止

現在推量・連体

打消・連体

格助・主格

来**つ** **ら** **む**方も見え **ぬ**に、猫**の**いとなごう鳴い

どこから来たのかわからない猫がとても穏やかに鳴いてい  
たるを、おどろきて見れば、いみじうをかしげなる猫あり。  
るのはつとして見ると、たいそうかわいらしい猫がいる。

完了・連体

いづくより来**つる**猫ぞと見るに、姉なる人、「あなかま、  
どこから来た猫かしら、と見ていると、「静かに

終助・禁止

人に聞かす**な**。いとをかしげなる猫なり。飼は**む**。」

意志・終止

人に聞かせてはいけません。たいそうかわいらしい猫です。私たちが飼いましょう。」

とあるに、いみじう人馴れつつ、かたはらにうち臥したり。  
と言って飼っていたが、(その猫は)とても人になれていて、私たちのそばで横になっていた。

尋ねる人<sup>や</sup>ある <sup>と</sup>、これを隠して飼ふに、

探している人がいるのではないかとこの猫をこっそり飼っていたが、

★②

+打消で呼応の副詞

打消・連用

<sup>すべて</sup>下衆のあたりにも寄らず、つと前にのみあり

身分の低い者のあたりには全く寄らず、じつと私たちの近くにばかりいて、食べ物もきたならしいものは、顔を横に向けて食べない。

て、物もきたなげなるは、ほかさまに顔をむけて食はず。

りいて、食べ物もきたならしいものは、顔を横に向けて食べない。

Ⅱ年下の兄弟

姉おととの中につとまとはれて、をかしがりうたがるほ

私たち姉妹の中にまとわりついて、面白がり可愛がっているう

どに、姉のなやむことあるに、ものさわがしくて、この猫

ちに、姉が病気になることがあって、家の中がさわがしくなっていて、この猫

バ行四段・未然打消・已然

を北面にのみあらせて<sup>呼ばね</sup>ば、かしこましく

を北側の使用人の部屋に行かせて呼ばないでいると、（猫は）やかましく

ラ行四段・已然  
鳴きののしれども、なほさるにてこそはと

鳴いて、大声で騒いでいたが、やはり離れたところにおいでいるので、寂しくて鳴いているのだろくらいに

思ひてあるに、わづらふ姉おどろきて「いづら、猫は。こち  
思っていたが、病床の姉がふと目を覚まして、「どこ、猫は。こち

ワ行上一・連用  
カ変・命令  
率て来。」とあるを、「など。」と問へば、「夢に、

らへ連れてきて。」と言うので、「どうして。」と聞いたところ、「夢で、

格助・主格  
この猫のかたはらに来て、『おのれは、侍従の大納言  
この猫が横に来て『私は侍従の大納言

格助・連体修飾格  
格助・主格  
副詞  
ラ行四段・連用完了・連体  
断定・終止  
の御むすめの、かくなりたるなり。さるべ

の姫君がこのようなになったのです。そうなるべ

作者のこと  
き縁のいささかありて、この中の君のすずろにあはれと思  
き前世の因縁がすこしばかりあり、この家の侍女が無性に

ひ出でたまへば、ただしばしここにあるを、このごろ下衆愛してくださったのでほんの少しの間ここに居りますのを、このところは召使い

の中にありて、いみじうわびしきこと。』と言ひて、いみじの間におかれて、たいそう辛いことです。』と言って、たい

ナリ活用・連用

う泣くさまは、**あてに**をかしげなる人と見えて、うちおどそう鳴いている様子は、高貴で美しい人に見受けられて、はつと目を

完了・已然

ろき**たれば**、この猫の声にてありつるが、いみじく

覚ましたところ、その声はこの猫の声だったのがたいそう

ナリ活用・連体断定・終止

**あはれなるなり**。」と語りたまふを聞くに、いみじくあは

身に染みて感じられたのです。」と（姉が）お話しになるのを聞くと、たいそう胸を突かれる

れなり。そののちはこの猫を北面にも出ださず、思ひかし気持ちである。その後は、この猫を北側の部屋にも出さず、かわいがり、

づく。ただ一人ゐたる所に、この猫が向かひゐたれば、か  
大切に世話をする。私がひとりで座していると、この猫が向かい合っていたので、

い 格助・動作の並行 なで 格助・連体修飾格 つつ、「侍従の大納言 格助・主格 の 姫君 の

猫をなでながら「侍従の大納言の姫君が、

サ変・連体終助・詠嘆 おは 使役・連用ラ行四段・未然（謙讓） する 格助・主格 な。大納言殿に知ら 格助・主格 せ 格助・主格 たてまつら

おいでなのですね。（お父上の）大納言殿に知らせ申し上げ

終助・自己の願望 ば 格助・主格 や。「といひかくれば、顔をうちまもりつつなごう鳴

たい。」と話しかけると、（私の）顔をじつと見つめながら穏やかに鳴

くも、みなす 心のなし、目のうちつけに、例の猫にはあらず、聞き

くのも、そう思うせいかちよつと見たところ、普通の猫ではなく、

知り顔にあはれなり。

私の言葉を理解しているようで、しみじみと愛おしい。

★「已然＋ば」順接確定条件の現代語訳

- ・ゝので
- ・ゝから
- ・ゝと
- ・ゝところ
- ・ゝするといつも

★① 推量の上にある「つ」は強意の意味になる。

★② 『すべて』ゝ打消』で「全くゝない」と訳す。呼応の副詞。

二〇二四年度 122回生 高校一年・言語文化〈古文〉  
一学期中間・予習プリントへ解答

問1 作品名…『更級日記』 作者名『菅原孝標女』

問2 i…カ行下二段活用連体形 ii…ワ行上一段活用連用形

問3 A「むやみに」「何とはなしに」 B「はっとする」

C「どこ」 D「病気になる」

E「大声で騒ぐ」 F「目を覚ます」

G「つらい」「くるしい」 H「高貴だ」

I「大切に世話をする」 J「見つめる」

問4 ① 文法的意味…「当然」または「推量」 活用形「連体形」

② 「そうなるべき」「そうなるはずの」

③ 作者が、今は亡き大納言のむすめの筆跡を眺めてもの悲しさを覚えるほど、  
彼女を慕っていたという縁。